



Smiling faces of miyakonojo

相手を尊重する

都城市点字図書館
またき かつひと 又木 勝人 館長

帰郷を機に、福祉の道へ

都城市総合社会福祉センター（松元町）2階にある都城市点字図書館。ここでは、視覚に障がいのある人の専門図書館として、点字図書や録音図書などの收藏・貸し出し、製作などが行われています。この点字図書館に28年にわたって勤務し、現在館長を務めているのが、又木勝人さんです。

都城市で生まれ育った又木さんは高校卒業後、県外の大学に進学。その後、大手建設会社に就職し、日夜仕事に没頭していました。そのような中、転機が訪れたのは27歳の時。実家の都合で会社を退職し、都城へUターンすることに。「前職時は、競争の毎日を送っていた。やりがいはあったがその反面、社会的に弱い

立場の人やハンデのある人を支援する仕事をしてみたいという思いもあった」と当時を振り返ります。想定外の帰郷ではありましたが、その思いが形となり平成5年、28歳の時に都城市点字図書館で勤務することになり、福祉の道を歩み始めました。

学びを重ね、相手を尊重する姿勢を確かなものに

点字に関してほぼ初心者だった又木さんは努力の末、点字の知識と技術を身に付け、実際に点字の指導ができる点字指導員の資格を取得しました。着実に学びを重ねていく又木さんでしたが、当初は経験不足ゆえに、利用者とのコミュニケーションに苦労したこともありました。「点字図書館といえば、本の貸し出しをはじめ、図書に関する業務のみを行っていると思われがち。しかし、当館で一番大切に行っているのは、視覚に障がいがある人のつらさや思いを受け止め、一人一人に寄り添った対応や声掛けを行うこと。それなのに、当時は相手に何と言葉を掛けていいか分からなかったり、不快な思いをさせてしまったりと反省することも多かった」と苦い表情を見せます。失敗もありましたが、この経験が又



編み物サロンにて、利用者やボランティアの皆さんと談笑する又木さん。

木さんの座右の銘である「相手を尊重する」という姿勢を確かなものにし、利用者や職員からの信頼につながっていきます。

視覚に障がいがある人と社会をつなぐ

平成20年、点字図書館「館長」に就任した又木さん。又木さんを頼りに点字図書館を利用する皆さんの熱い要望もあり、生え抜きの職員としては初の館長就任となりました。当館は、事故や病気により中途視覚障がい者になり、社会とのつながりが希薄になった人をサポートするのも役目の一つ。点字を教えたり、相談



MRTラジオのスタジオにて。メディアでのイベント告知も大切な業務の一つ。

に乗ったりするうちに、一度は生きる希望を失った人が元気を取り戻し、又木さんと出会えてよかった。頼りにしている」との言葉を掛けてくれた時は、本当にうれしい」と目を潤ませます。

現在、館長職だけでなく、全国点字図書館部会の副部長職などを兼務し、忙しく駆け回る又木さん。今後の目標として、「視覚に障がいがある人のコミュニケーションの場として、市民の皆さんをはじめ、多くの人に当館の存在を広く周知していきたい。そして、視覚に障がいのあ

利用者の思いを受け止め、

一人一人に寄り添う姿勢を大切に



Smiling faces of miyakonojo

人の風景